

休日血液培養陽性報告への取り組みとサブカルチャー実施の有用性

◎小島みなみ¹⁾、石原有紗¹⁾、加藤幹人¹⁾、今井美美¹⁾、伊丹直人¹⁾、明貝路子¹⁾、川村眞智子¹⁾
地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立がんセンター¹⁾

【はじめに】敗血症は生命にかかわる重篤な病態で速やかな抗菌薬投与が必要となる。そのため、血液培養陽性時は迅速かつ詳細な結果報告が臨床における抗菌薬選択の一助となり、患者の予後にも影響する。当センターでは抗菌薬適正使用への取り組みの一環として2021年6月より休日の血液培養陽性報告を実施している。その取り組みと2023年7月から開始した日当直者によるサブカルチャー実施の有用性について報告する。

【概要】時間外の血液培養陽性報告は休日の朝とし、日当直者2名が揃う勤務交代時に実施している。休日の血液培養陽性報告は以下の3段階で実施した。

- ①2021年6月～：血液培養陽性のみ報告（トレーニングとしてグラム染色を実施）
- ②2022年6月～：グラム染色結果を全例報告
- ③2023年7月～：②に加えてサブカルチャーを実施

【対象と方法】2023年4月から9月に提出された血液培養陽性検体223件を対象とし、培養開始から菌名報告、薬剤感受性結果報告（外注を除く）に要した時間を集計した。

その集計結果をサブカルチャー開始前後で比較した。

【結果】サブカルチャー開始前の菌名報告時間は2.00日、薬剤感受性結果報告時間は3.32日、開始後の菌名報告時間は1.70日、薬剤感受性結果報告時間は3.05日となり、菌名報告時間は7.0時間、薬剤感受性結果報告時間は6.5時間短縮した。

【考察】日当直者のサブカルチャー開始により、翌営業日の午前中に菌名を報告することができ、菌名報告時間や薬剤感受性結果報告時間が大幅に短縮された。早期に菌名や薬剤感受性結果を報告することは抗菌薬適正使用において重要であり、本取り組みの臨床的貢献度は大きいと考えられた。

【結語】日当直者によるサブカルチャー実施は血液培養陽性検体の結果報告時間短縮に有用であった。また、血液培養陽性報告からサブカルチャーまでを段階的に進めることで、日当直者の理解を得ることができ、スムーズな運用変更へと繋がった。

連絡先：048-722-1111